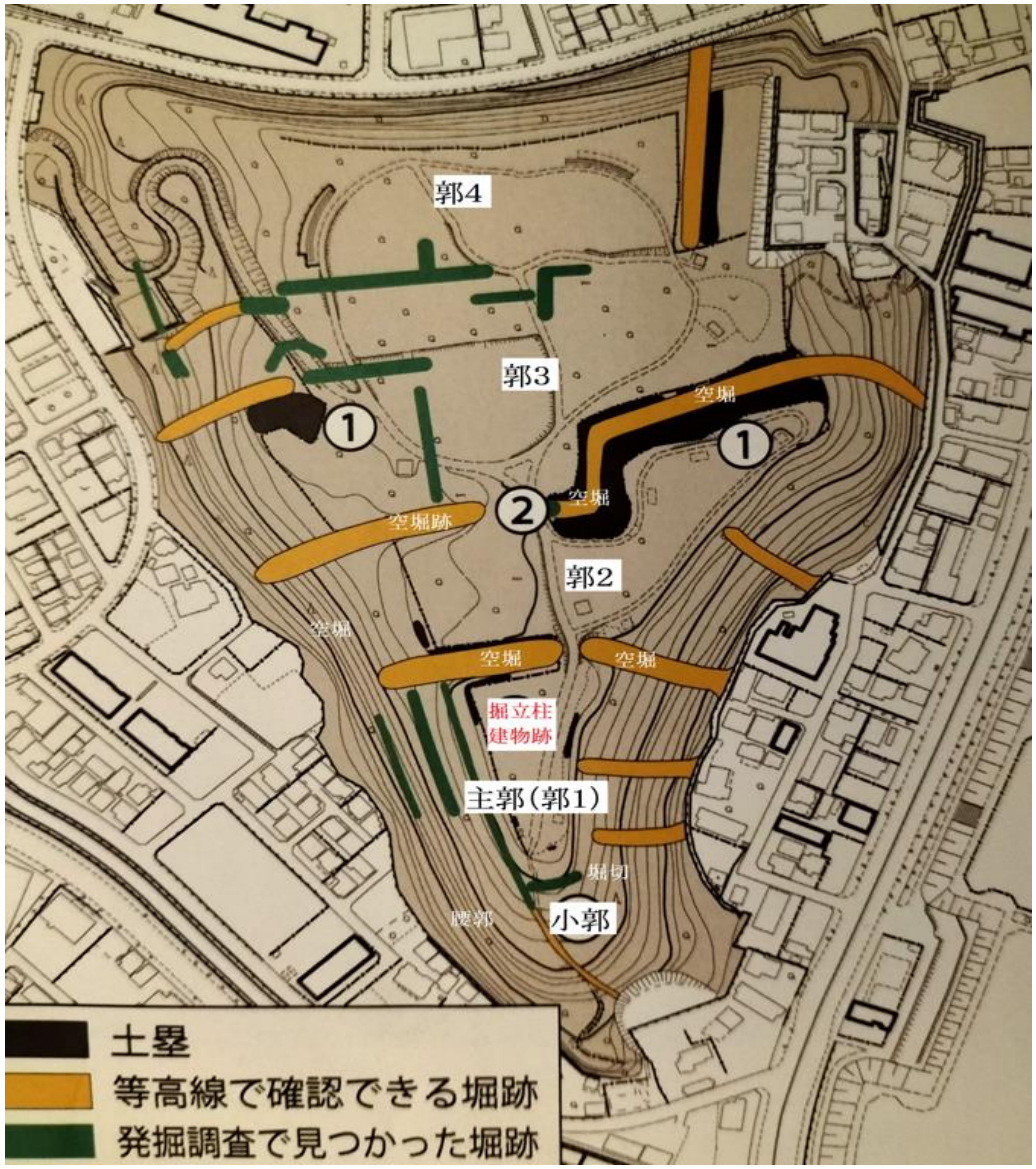
大庭城跡（藤沢市）



縄張図/上が北方向/大庭城址公園となっている/南側の公園入口から小郭～主郭（郭1）～郭2～郭3～郭4と進み、最後に郭4の左下にある公園管理事務所内に展示されている大庭城に関する資料を見学しよう！

大庭城址公園南側入口から“いざ登城”

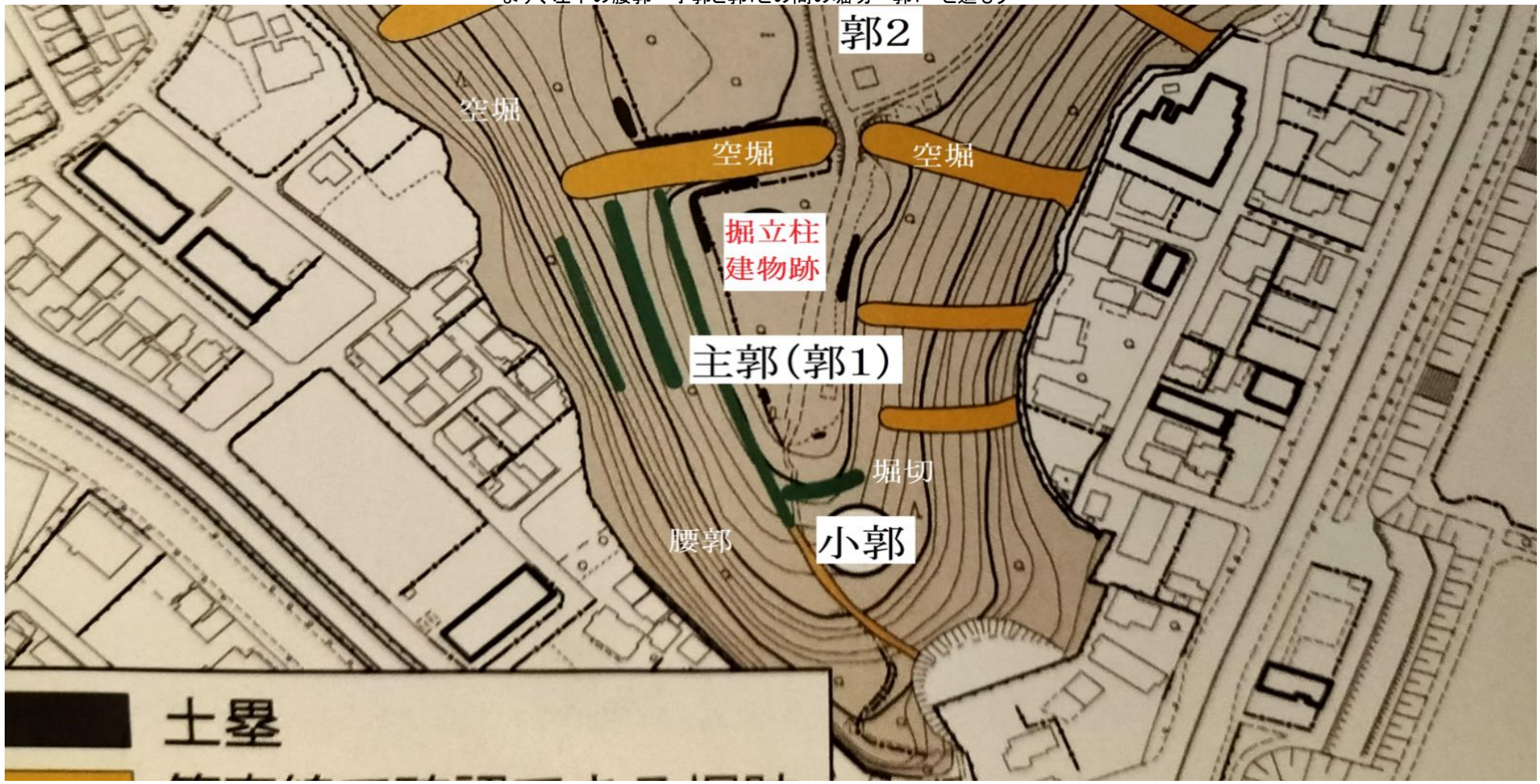
ここが大庭城址公園南側入口

video

DyDo

こんな所を登って行く

まず、左下の腰郭～小郭と郭1との間の堀切～郭1へと進もう



現在地

遊歩道となっている

video

暫く登って行くと左手に祠がある

その左下を見ると、これが西側の腰郭と思われる平場で、前方（郭1方向）に続いている/この先では空堀となっているようだが・・・ video

遊歩道を更に登って行く/右上は小郭のようだ

video

そこで、左下を見たところ/先程の腰郭が続いている/この辺りは発掘によって空堀とされる部分かもしれない video

ここを登り切った所が郭1

そこで、右手を見たところ/ここが小郭（右手）と郭1（左手）との間の堀切

video

前方が郭1

video

ここが郭1

video

大庭城碑が立っていた

大庭城址についての説明書きも刻まれている

その城址碑の背後（西側）を見たところ/この下は腰郭が続いていると思われるが、確かに空堀のようにも見える video

郭2方向（北方向）を見たところ

video

東側から西方向を見たところ/井戸跡のようなものがあった

video

これは掘立柱建物址/石柱で高床建築の柱穴の配列状況が明示されている video

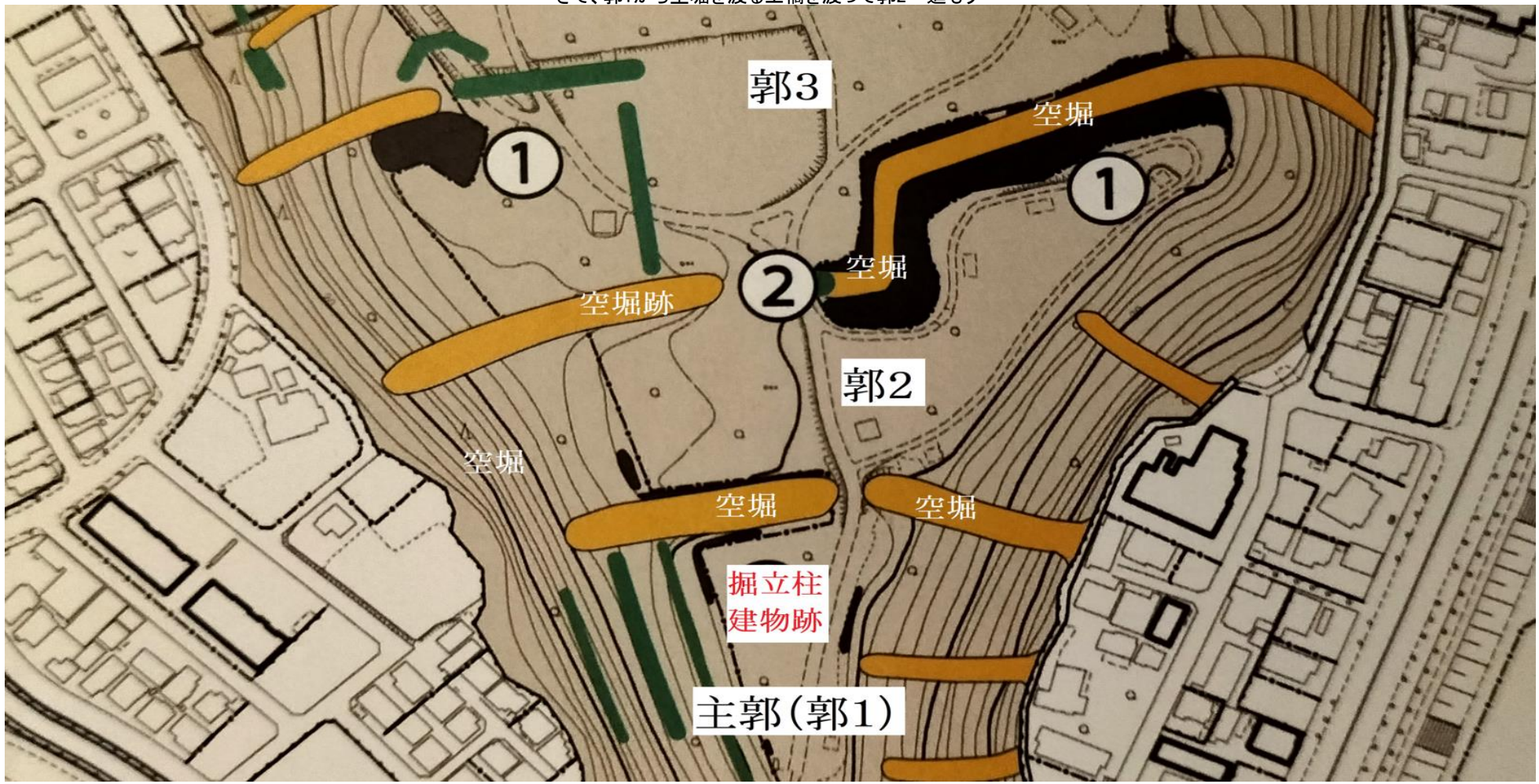
掘立柱建物址（ほったてばしらたてものし）

大庭城は、台地上を東西に横断する三本の空堀（からぼり）によって、一の郭（くるわ）、二の郭、三の郭（ゆう）、四の郭にわかれています。ここは、最南の郭にあたり、北縁の空堀によって、北側の郭と区画されています。周囲には、土塁（どるい）の跡が部分的に見られ、東斜面には腰郭（こしぐるわ）、西斜面には二段の空堀や帯状の腰郭が残っています。

この石柱は、昭和４３年の発掘調査で確認された高床建築の柱穴の配列（掘立柱建物址）を示したもので、実際の柱穴は現地表下５０ｃｍに保存されており、これは原位置ではありません。

このほかにもいくつかの遺構が発見されていますが、この郭が大庭城のなかで、どのような役割をはたしたかは、今後の全面的な発掘調査をまたなければわかりません。

さて、郭1から空堀を渡る土橋を渡って郭2へ進もう



ここが土橋/両サイドが郭1と郭2の間の空堀

video

「からぼり」と刻まれた石碑が立っている

video

左手の空堀底から土橋越しに右手の空堀を見たところ

そこで、振り返って左手の空堀を見たところ/右手が郭2、左手は郭1

郭2/南側から北方向を見たところ

video

郭2の南西側から北東方向を見たところ

video

そこで、右手を見たところ/土塁が巡っている/その土塁の向こうは郭1との間の空堀 video

その土塁を東側から西方向に見たところ/左手は土塁～空堀～郭1となっている

video

反対に西側から東方向に見たところ/右手は土塁～空堀～郭1となっている video

西側の土塁上から、郭1～郭2と続く空堀を見下ろしたところ

video

南西角の土塁上で、郭1との間の空堀を見下ろしたところ

video

その空堀底に下りて、西方向を見たところ

video

空堀を西方向に下り、パノラマで見たところ/前方が南からの腰郭（あるいは空堀）の続きのようだ video

ここがその腰郭（空堀）

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

同じく、振り返って東方向を見たところ

video

ここは郭2の東側のエリア

video

後ろの東屋の背後にある空堀を見たところ

video

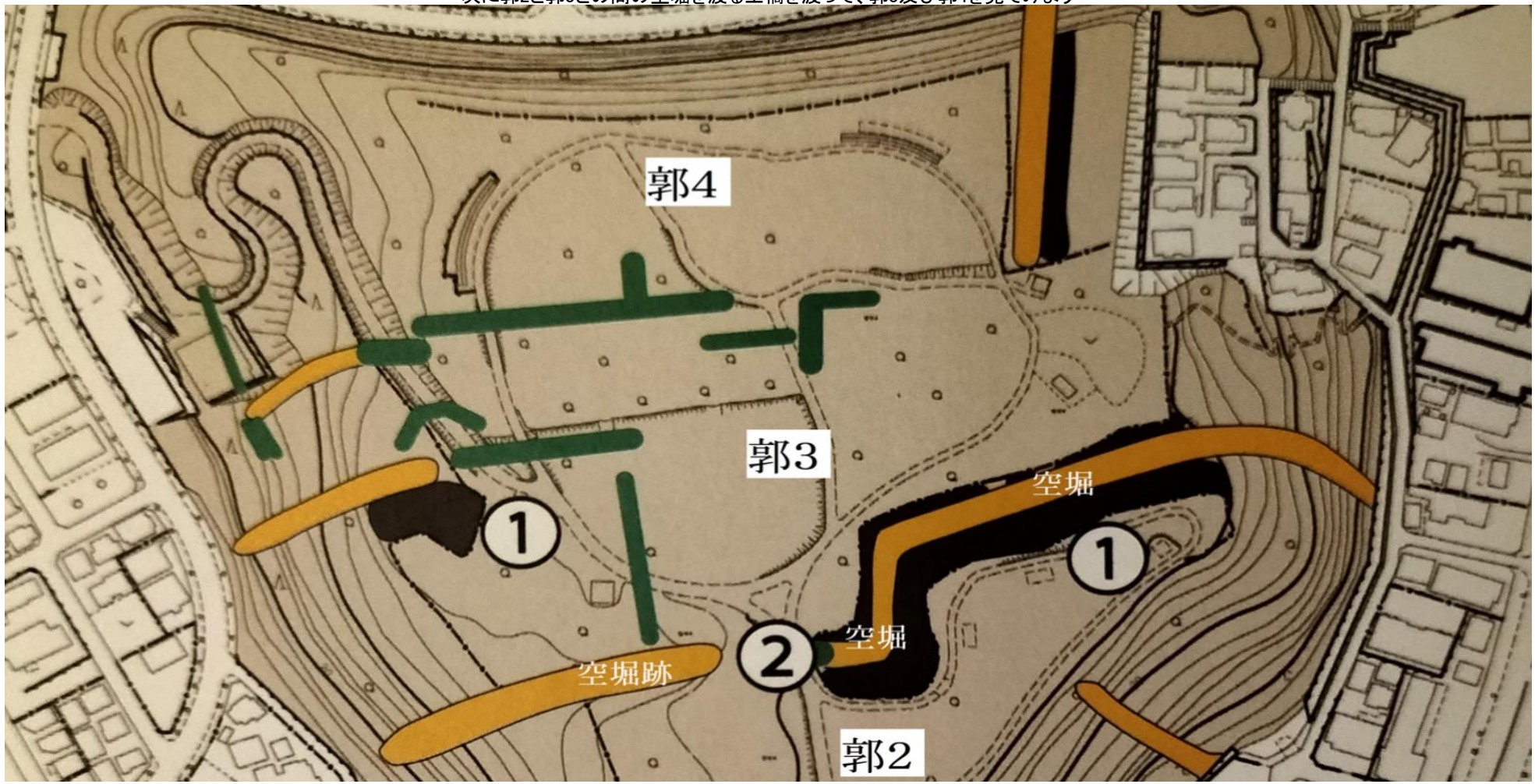
東側の郭2の、北側の土塁を見たところ

video

その土塁上から、郭3（北方向）との間の空堀を見たところ

video

次に郭2と郭3との間の空堀を渡る土橋を渡って、郭3及び郭4を見てみよう



前方が郭3

video

振り返って、郭2方向を見たところ

そこに大庭城址についての説明板が立っていた

video

大庭城址

大庭城は、平安時代の末期(12世紀末)、大庭荘(おおばのしょう)を本拠としておこった関東平氏の雄(ゆう)、大庭氏の拠点であったと伝えられますが、明らかな記録はなく、室町時代中頃(15世紀後半)になって、扇谷(おおぎがやつ)上杉定正の執事太田道灌が、本格的な築城を行ったとされています。

その後、上杉朝良のとき、北条早雲によって攻略され、以後、小田原北条氏の支配下に置かれました。そして、天正18年(1590)、小田原北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされ、大庭城は、廃城となったようです。

現在残されている土塁(どるい)・空堀(からぼり)などの城址の構えには、小田原北条時代の改修があったものと考えられますが、雄大でかつ綿密に設計されていたことは、築山(つきやま)、裏門、二番構(にばんがまえ)、駒寄などの地名からもしのばれます。

土橋の右手には「からぼり」と刻まれた石碑が立っている

これが右手（東側）の、郭2（右手）と郭3（左手）の間の空堀

その空堀底に下りて、東方向に進んでみる

video

空堀は前方で突き当り、左手に折れて郭3を取り巻くように続いている

video

そこで、振り返って西方向を見たところ

こちらは左手（西側）の、郭2（左手）と郭3（右手）の間の空堀方向

埋められて浅くなっているが、これが郭2(左手)と郭3(右手)の間の空堀 video

その空堀を西側から東方向に見たところ/右手が郭2、左手は郭3

video

これはその空堀を、郭2から郭3方向に見たところ

video

これは反対に、郭3から郭2方向に空堀を見たところ

video

さて、郭2と郭3の間の空堀に沿う東側の土塁を見てみよう/南側から北方向に見たところ video

その土墨を北側から南方向に見たところ

video

そこで、左手を見たところ/土塁（空堀も同様）は東方向に折れて続いている

video

その土墨を東側から西方向に見たところ

video

そこで、土塁の左手を覗くと、郭2との間の空堀が見える

video

これは郭3の東端で、南側から北方向に見たところ

video

右手を見ると空堀状になっている

video

郭3の東端で、北側から南方向に見たところ

video

左側を見ると、この辺りは城墨となっている

これは郭3を東側から西方向に見たところ/右手が一段高くなっているが、このエリアが郭4/当時は何らかの障壁のようなものがあったと思われるが・・・

video

郭4で北側から南方向を見たところ

video

郭4の北端から南方向を見たところ/この辺りは樹木が残っている

video

郭4で西側から東方向を見たところ

video

郭4にはこんな説明板も立っていた

原始・古代の集落

この台地上には、縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代など各時代の遺物が広く散布しており、大庭城が築かれる以前から、人々の生活舞台となっていました。

これまで数回におよぶ部分的な発掘調査でも、縄文時代の集石(しゅうせき)遺構をはじめ、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴(たてあな)住居や方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)、さらに奈良・平安時代の竪穴住居などが、豊富な生活用具（土器・石器・鉄製品・装身具等）をともなって、数多く発見されています。

これらの貴重な資料は、特に弥生時代以降の人々が、東側の引地川や西側の小糸川流域に水田を開き、この地に大規模な集落生活を営んでいたことをもの語っています。

さて、郭3の北西側から大庭城址公園の北西側入口へ下りて行こう

傍らには大庭城址公園の石碑があった

大庭城址公園の北西側入口に下りてくると、公園管理事務所があり、大庭城についての展示スペースがあった

大庭城址公園管理事務所
定礎
イヤーラウンド
大庭城址コース
チェックポイント
20km
禁

大庭城
大庭城
消火器
AED

伝承では、大庭城は大庭景親の居館跡とされるが、実際は別の場所にあったらしい/舟地蔵についても言及されている

伝承の中の大庭城

「大庭城」の名前が文献上初めて登場するのは、天保12年(1841)、昌平坂学問所で編纂された『新編相模国風土記稿』です。この中で地元の伝承として、大庭城は平安時代後期に活躍した大庭三郎景親の居館跡を扇谷上杉氏の家宰である太田道灌が城郭として改修したものの、永正9年(1512)、伊勢宗瑞(通称:北条早雲)により落城したとあります。

現在伝わる大庭城のイメージは、『新編相模国風土記稿』の記事を見ても分かるように、すでに江戸時代の後半には出来上がっていたようです。ただし、当時の資料を見ると必ずしもこの伝承が正しいわけではないことが分かります。

なお大庭城に関連する伝承は、大庭城の南側に鎮座する舟地蔵や築山、柏山稲荷神社などに残されています。

この大庭城は扇谷上杉氏の城の一つであったようだ/その後は玉縄北条氏の城になったという

大庭城の実像

大庭城が築城された室町時代の記録に『玉隠和尚語録』というものがあります。この中で、玉隠和尚が明応８年（1499）に扇谷上杉持朝という人物の三十三回忌の法要をおこなった際の言葉が記載されていますが、それを見ると大庭城と大庭景親の館跡は別の場所にあること、大庭城の城主は扇谷上杉朝昌という人物であったことが分かります。

扇谷上杉氏は、享徳元年（1452）頃までには、大庭御厨を支配していたことが知られており、関連する古文書が伊勢神宮などに残されています。

大庭御厨

伊勢神宮の荘園を御厨といいます。大庭御厨の範囲は、東が境川、西が小出川の東岸、南が海、北が大牧崎（亀井神社付近か）であることが記録からわかります。

年号	西暦	主な出来事
享徳元年	1452	この頃までに、扇谷上杉氏が大庭御厨を所領とする。
寛正六年	1465	伊勢神宮、大庭御厨からの年貢未進を扇谷上杉氏の家臣、太田道灌に訴える。
文明元年	1469	伊勢神宮の荒木田氏経、大庭御厨代官の出口氏・室田氏により、年貢が横領された旨を、太田道灌に訴える。
長享二年	1488	扇谷上杉朝昌、山内上杉氏との合戦に敗れ、守備していた七沢要害（厚木市）を放棄し、大庭城へ移る。
明応八年	1499	『玉隠和尚語録』に大庭に城郭が存在していた記述がある。
永正九年	1512	伊勢宗瑞（北条早雲）、扇谷上杉方の城を攻撃し、岡崎城（伊勢原市・平塚市）や大庭城が落城。
永禄二年	1559	玉縄北条氏の一族と考えられる福島左衛門が玉縄衆として、180 貫文で大庭を知行。（『小田原衆所領役帳』より）

大庭城および扇谷上杉氏関連略年表

こちらが大庭城址公園の南東側に所在する舟地蔵

藤沢市指定重要文化財

史跡 大庭の舟地蔵伝承地

平成三十一年二月一日指定

この地蔵尊は、台座が舟型となっていることから、「舟地蔵」と呼ばれている。

永正九年（一五一二）の夏、北条早雲（伊勢宗瑞）は鎌倉の扇谷上杉氏の居城であった大庭城を攻めたが、北条軍と大庭城の間には引地川がつくった大きな沼があり、なかなか攻め入ることができなかった。

やがて、北条軍は、近くに住むボタ餅売りの老婆から、沼に引地川の水を取り入れている取入口の堰を止めて、下流の堰を開けば水が干上がることを聞き出したうえ、口ふさぎとして老婆を切り殺した。かくして、北条軍はようやく沼を越えて、大庭城を攻め落とすことができた、と伝わる。

この舟地蔵は、殺されたあわれな老婆を供養するために、土地の人々がのちに城の近くに建てたという言い伝えがある。

舟地蔵が建てられた時期は後世（江戸時代）に降り、その後この地区の開発により、何回かの移転を経て現在地に落ち着いた。この周辺が上杉・北条両軍の激戦の地であったこと、また引地川の水が昔より周辺を潤していたことを今に伝える史跡である。

藤沢市教育委員会

南西側から見た大庭城跡

video

湘南台文化センター
相鉄いずみ
横浜市営地
ブルーライ
桐原公園
引地川緑地
湘南台
遠藤公園
湘南台公園
六会
日大前
小田急江ノ島線
大庭城址公園
藤沢街道
境川
47
善行
引地川親水公園
43
大庭台墓園
467
藤沢バイパ
1
城南
南バイパス
藤沢
本町
白旗
神台公園
44
43
30
引地川緑地
引地川
藤沢橋
辻堂駅
藤沢駅
境川緑地
藤沢警察署前
浜見山
石上
467
30
本鵠沼
柳小路
長久保公園
境川
辻堂南部公園
引地川緑地
鵠沼
新林公園
鵠沼海岸
小田急江ノ島線
湘南海岸
公園
湘南
モノレー
片瀬山公園
辻堂海浜公園
西浜公園
目白山下
湘南江の島
片瀬江ノ島
江ノ島
江ノ島電鉄
134
江の島